

別記様式

会 議 録

会議の名称	令和4年度第3回戸田市外部評価委員会
開催日時	令和4年7月15日(金)午前9時00分 ~ 午前11時57分
開催方法	502会議室
委員長等氏名	委員長 佐藤 徹 副委員長 長野 基
出席者氏名 (委員)	委員 興松 敬史 委員 石田 真由美 委員 宮崎 仁美 委員 芳賀 良 委員 長谷川 孝雄
欠席者氏名 (委員)	無し
説明のため 出席した者	無し
事務局	石橋部長 佐藤次長 甲原課長 石嶋主幹 野本主任
議 題	(1) 令和4年度評価対象施策の概要について (2) ロジック・モデルシートを用いた評価について (3) 今後の事務スケジュールについて
会議の経過 及び 会議結果	別紙のとおり
会議資料	次第及びタイムテーブル 【資料1】 扶助費の推移及び財源内訳 【資料2】 会計別決算額の推移 【資料3】 戸田市の人口将来推計 【資料4】 外部評価ヒアリングまでのスケジュールについて 【その他資料】 事前質問記入用紙(令和4年8月5・19日実施分) 【その他資料】 施策評価及び事務事業評価シート

(会議の経過)

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	1 開 会 ○委員長挨拶 開会前に話をしていたが、月曜日に大学のゼミで卒論の案に対するコメントをしていた時に、熱中症になってしまった。委員皆様はそのようなことのないように、水分補給していただきながら、本日は12時までの長丁場になるため、くれぐれも注意していただきたい。
事務局	○第2回外部評価委員会の振り返り 資料1から資料3に基づき、説明を行った。
委員長	2 議 事 (1) 令和4年度評価対象施策の概要について 本日はタイムスケジュールが厳しくなっており、議題(1)に係る委員からの質問は、各施策に係る事実関係を確認する質問に留めていただき、事業の妥当性など、施策評価の内容に係る質問については、8月に行われるヒアリングの際に行っていただきたい。また、この場で事務局において回答がすぐにできない質問についても、次回のヒアリングで回答するという取扱いにさせていただく。円滑な進行のため、委員各位の協力をお願いしたい。
事務局	< 施策3「児童・青少年の育成環境の充実」 > 施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。
委員	取組の1・2でプリムローズとこどもの国の各施設に違いがあるとの話を伺ったが、立地と場所もかなり違い、そういったところで利用する方々もある程度近くの方が多いと考える。各施設の地域性などは、どのように運営事業の中に反映させているのか。
事務局	プリムローズやこどもの国において実施している取組については、アンケートなどを取り、施設にどういったものが良かった方が良いか、例えば、遊びの道具があった方がよいなど、できるだけ利用者の意見を集めて、施設に反

	<p>映できるものから実施し、より需要に即した施設にしている。事務事業評価シートでは、見直し内容欄においてアンケートにより今後のサービスの提供などに活用していくことが書かれている。サービスの向上の一環として、声を取り入れて改善できる点から改善している。</p> <p>補足として、プリムローズもこどもの国も施設の内容も差がある。こどもの国の建築年度は、平成27年度と新しいが、プリムローズの建築年度は、平成5年で30年ほど経つ建物になる。こどもの国はプールなどもあり、非常に人気の高い施設であり、当然、近くの方だけでなく、市内全域から利用者が来ている。</p>
委員	<p>事業評価シートの目標達成状況にある定量目標は、ロジック・モデルでいうところの最終成果や中間成果ということか。いわゆる KPI に該当するもので、各施策のロジック・モデルシートとの整合性や妥当性は、誰かがチェックしているのか、あるいは、そこ自体も我々がチェックというイメージなのか。指標自体も違うのではないかと、因果関係がないのではないかなど、我々が評価するというイメージなのか。なんとなく違和感があり、最終成果への繋がり方にも疑問がある。</p>
事務局	<p>KPI というイメージで書いているが、指標の妥当性、指標はこれで良いのか、目標値はこれで良いのか、そういったところも含めて評価をいただくこととなる。次回のヒアリングで指標の設定理由など、確認をしていただきたい。</p>
委員長	<p>質問された内容は非常に重要な内容で、事務事業評価と施策評価という2種類のシートが戸田市から提供されている。事務事業評価シートの2ページ目の目標達成状況に掲げている事務事業成果 や が、成果のレベルでいったらどのレベルなのかということがポイントである。事務事業の成果なので、これは最終成果ではなく、つまり、直接成果か中間成果ということになる。</p> <p>一方、施策評価シートに記載されている施策の指標における成果にある内容は最終成果となる。レベル感というものが施策における成果なのか、あるいは事務事業における成果なのか、そこがまず、レベルが混在して設定され</p>

	<p>ていないかどうかというチェックもしていきたい。そもそも、レベルが合っ ていても内容がおかしいのではないか、この施策や事業の成果は一体何か、 それを測るのに適切な指標、物差しになっているか、という観点で気づきの 点があれば、ヒアリングの中で意見をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>今回の成果は、令和3年度の成果ということになるかと思うが、計画を作 っている期間においても各種国の法律等々が変わってくるという状況があ り、本来の施策の目標に対して、新たに国の命令のようなものが加わって くるというケースも考えられる。それを施策の中で対応しなければいけないと いうケースもありえる。事実確認として質問したいが、子どもの貧困対策推 進法が令和元年にさらに充実するように変わったものである。国からの法律 上の要請がくる場合において、今、施策の目標が育成環境の充実となってい るが、目標やそれを具体化する目標値検討において、この子どもの貧困対策 推進法からの要請というのは、ここで組み込んでいる内容となっているの か、施策のデザインとして、別のものに対応しているのか、という点につい て、事実関係を教えてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>担当部局に確認する必要があるが、法の要請等々に基づく内容について は、それを新たに受けた事業を市として取り組むことは基本的になく、いわ ゆる既存事業の中に、法の要請のようなものをどの程度取り組んでいるか という点であると考え。</p> <p>令和元年度改正というものが、事業の中でどのようなところに組み込まれ ているか、という部分は承知しているところではないので、その点について は、次回のヒアリングの際に回答させていただく。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、児童センターの延べ利用目標が施策のところで、28,869 人とな っていて、事務事業評価シートにおいて、プリムローズは 31,000 人、こど もの国は 33,000 人となっているのは、条件が違うということか。中高生の 利用というのが施策の指標になっている。</p>
<p>事務局</p>	<p>中高生の利用である。中高生の利用が伸び悩んでいるということが施策の 課題にもなっており、そういった意味で、全体の人数でなく、特に中高生の</p>

	<p>人数が指標となっているものとする。</p>
委員長	<p>こういった指標の設定の仕方が適切なのかというところも見てほしい。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>
委員一同	<p>異議なし</p>
	<p>< 施策5 「生涯学習活動の推進」 ></p>
事務局	<p>施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。</p>
委員	<p>さきほど、公民館が3つあると聞いたが、「2. 施策の主な取り組み」の中に新曽公民館事業だけ書かれているのは、何か理由があるのか。</p>
事務局	<p>確認の上、次回のヒアリングで回答させていただきたい。推察としては、当然、公民館が3つある中で一番代表的なところを記載したのかと思うが、改めて確認する。</p>
委員	<p>総合振興計画に記載されている文面を改めて確認したところ、いくつかのところに、アンダーラインを引かれていて、特にここが重要というところが設定されている。課題として「参加者の固定化と高齢化」というところにアンダーラインが入っていたり、今後の方向として「地域で孤立傾向にある高齢者」にアンダーラインが入っていて、また「地域の課題解決につながる講座」というところにもアンダーラインが入っている。第5次の取組においては、ここに注目をあて、ここに向けてみんなで頑張るよと書いてある。この特記事項を考えたときに、ここで書いてある高齢者に対する取組をどこで読み込んだらよいのか。それから、アンダーラインが引いてある地域の課題解決というところで、ここで言っている「解決とは、何か」というところをどこで読み込むのか、という点の理解がずれてしまうと評価もずれることになってしまうので、確認をしたい。</p>
事務局	<p>課題解決のどこを解決としているのか、については、その事務事業の内容</p>

	<p>等でどういったことを目指して施策の中でやっているのかという、まさに、外部評価項目の事務事業の妥当性のところであり、次回のヒアリングの場で確認をしていただきたい。ただ、その疑問点については、私共の方から関係部局に伝え、その点についてしっかり回答できるようにしたいと考える。</p>
委員	<p>ここで言っている地域の課題とは、何かという点は、担当部局で答えられる内容なのか。</p>
事務局	<p>これが課題というよりは、その地域の課題というものを見つける、あるいは刻々と変わっていく中で、どのような課題が出てくるか、というものを一緒に市、あるいは市民の方とともに、学習の機会を通じてやっていくという方針を掲げているものと思うので、課題が何だということに対して明確に回答がくるかということ、そこはもしかしたら定性的な回答になる可能性がある。</p>
委員長	<p>担当部局に質問することも大事であると思う。理解されていないといけない点であるため。</p>
事務局	<p>下線が引かれている箇所というのは、第5次総合振興計画を策定する際に、市民の方等々といわゆる協働会議というものを開催しており、この総合振興計画を作る際に、どういったものを取り入れていったら良いか、というようなところで出された意見が、この下線部である。そういった点を踏まえ、市としてどのようなことを事業としてやっていくか、というような流れになると思うので、そういった背景があるということを理解いただきたい。</p>
委員長	<p>第4次総合振興計画で、アンダーラインはなかったか。</p>
事務局	<p>第4次総合振興計画においては、アンダーラインはない。</p>
委員長	<p>今回、初めて登場するもので、注目してもらいたい点ということだが、通常、あまり基本計画にアンダーラインが引いてあるのは、見受けられない。それはそれで良いと考える。アンダーラインがあると分かりやすいかもしれ</p>

	ない。
委員	私は、施策評価シートを中心に説明を聞いているが、「施策の主な取り組み」と総合振興計画の施策、こういう施策があるから、こういう「施策の主な取り組み」があるというものを、これに限らず全部やった方が理解もしやすいと思う。そこについては、我々が読み取るしかないのか。示しいただくと理解がしやすいが。
事務局	この場に間に合わなくて大変恐縮であるが、第1回から説明しているロジック・モデルシートを見ていただくと、ある程度、その流れというものが、可視化できると考える。シートについては、ヒアリング前に提供させていただき、少しでも理解が進むように準備をさせていただく。
委員長	特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。
委員一同	異議なし
事務局	<p><施策7「スポーツ・レクリエーション活動の推進・充実」> 施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。</p>
委員	スポーツの推進として、スポーツセンターというものは分かる。ポートも分かるが、その他に、荒川の河川敷にある彩湖グリーンパークでサッカーコート、野球場やテニスコートがあるが、この施策に入ってくるのか。
事務局	彩湖グリーンパークは、戸田市水と緑の公社という別の団体が公園施設を管理しているため、この施策には入っていない。
委員	今後、そういうのをどうするかっていうのは、直接聞かないとわからないということで、河川敷も今後、オープンにされるようになってきており、事業者がそれを利用するようになってくると思ったので、確認した。
事務局	補足として、市の代表的な事業としてマラソン大会など、地域資源を活用

	<p>した取組など、場所を使った実際のイベントなどはこの事業に入っている。</p>
委員	<p>施策指標における主な成果のところ、さきほど毎年、市民アンケートを取っていないと説明があったが、にもかかわらず、年次の指標に設定しているということか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
委員	<p>さきほどの施策5のところの生涯学習に関する市民意識調査というのは、毎年、アンケートを取っているということか。</p>
事務局	<p>毎年、取っているわけではなく、いずれも隔年で取っている。 毎年取っている指標ではないという点で、いずれの施策の指標の考え方も同じである。</p>
委員	<p>どちらも隔年だが、毎年の指標として設定しているのであれば、その点はおかしいと考える。</p>
委員長	<p>施策の指標の真ん中のスポーツ・レクリエーション活動の年間参加者数で、算定式には市民アンケート調査結果と書いてある。これは、冊子の方を見ると、さきほど説明された戸田市スポーツ推進計画における市民アンケート調査を適用とあり、おそらく、分野別計画の策定過程で基礎調査として実施された市民アンケート調査結果をここで採用しているという理解である。そうすると計画を改定するごとに、改定過程でこういった市民アンケート調査を実施するのだと思うが、それでも2年に1回なのか。</p>
事務局	<p>さきほどの説明が誤っていた。隔年ではなく複数年であり、2年に1回という意味ではない。</p>
委員長	<p>スポーツ推進計画の改定頻度が、例えば、5年に1回ということであれば、5年に1回しかこの指標は分からないということになる。それから、そもそも、どういう設問があったのかという質問に対してこの指標を抜き出して</p>

	<p>るのか、ということが考えられる。</p> <p>「市・スポーツセンター主催の教室」というのは、民間も含めてということか。</p>
事務局	<p>スポーツセンターというのは、戸田市のスポーツセンターという意味で、指定管理ではある。</p>
委員長	<p>設問で、どのような問いかけになっているのか、また、そもそも指定管理であれ、市が運営しているところだけに参加した人で良いのか、という議論がある、施策として。そうではなく、事務事業のレベルの集計だけなのかという点もある。できれば、市民アンケート調査、他のもあるならば、指標として取った部分の設問があると非常に分かりやすい。ネットで公表されているのかもしれないが。</p>
事務局	<p>指摘の点については、資料として準備させていただく。</p>
委員	<p>スポーツ・レクリエーション活動に、さらに「戸田市独自の」と付いているので、つまり、委員の皆さんが、私はこれが独自だと思うという内容と、施策を作っている側が、これが独自だという点がずれると、議論もずれてしまうので、ここで言っているスポーツの範囲が何かというのを評価に入る前に確認しておかないといけないと考える。</p> <p>それを踏まえての質問だが、通称アーバンスポーツと言われるものがある。例えば、ボルダリングといったようなものは、主に民間の商業施設が環境を提供している。それを親しむ方が増えてきていると考え、施策で考えているスポーツの定義の範囲では民間が提供するアーバンスポーツやスポーツと言ったものを親しむ方が増えるといったことを入れるのか、入れないのか、定義として確認しておかないと議論が大きくずれてしまう。こちらとしては、いわゆる商業施設が提供する各種、新しいスポーツというのは、ここでは範囲にされているのかという点を改めて質問としたい。</p> <p>2番目は、総合振興計画上では、スポーツをする人だけでなく、「みる」とか、「ささえる」人を増やすと定義されている。ここで言っている「みる」と「ささえる」といったものはなにか。例えば、みると言ったらテレビを見</p>

	<p>るだけでもなるのかもしれない。やはり、ここは、こういうものである、というものを確認した上で、議論をしていかないと評価しにくい面があるので、この点を事前質問としたい。なお、さいたま市でいうと明らかにプロスポーツである浦和レッドダイヤモンズと大宮アルディージャの商業スポーツが地域資源ということで定義されているので、いわば民間の商業団体を市が応援するといったこと自体が政策のメニュー化されているといったことがある。ということは、民間商業施設がやることを市が応援することも地域資源という定義に当てはまるのか、オプションとなり得るのか、について、この施策を作るときには、どう考えていたのかという点の説明がないと誤解が生まれてしまうと思う。</p>
事務局	<p>議論に入る前に市側は、このように考えていたということを委員皆様に一度説明し、市側の考えを皆様の中に共通認識とした上で、議論すべきと考える。ヒアリングの際に、そのような点を説明した上で、議論に入れるような仕組みを作っていきたい。</p>
委員長	<p>そういった目指す姿がきちっと反映できていれば本当は良いが、実際はどうか、まだ見ていないので分からないが。</p>
委員	<p>事務事業評価シートの7ページのスポーツセンター管理運営費のところの目標達成状況のところの指定管理者へのモニタリング実施回数5回という目標の中身が理解できない。指定管理とは、なにか。</p>
事務局	<p>戸田市文化スポーツ財団が運営しており、指定管理者へのモニタリング調査ということで実施調査を四半期に一回と年間通して1回の計5回となる。</p>
委員	<p>中身がよく理解できていないが、指標として意味があるのか、有効な指標なのかという判断をする上で、中身を教えてほしい。</p>
事務局	<p>どういったものをモニタリングしているかという中身について、回答させていただく。</p>

委員長	今回、ヒアリング当日に質問する以外に、事前に質問した内容をヒアリングの前日か前々日に回答してもらえるシートはあるのか。
事務局	事前質問をいただき回答する。
委員長	思いついた点があれば、事前質問シートに書いてほしい。
委員長	特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。
委員一同	異議なし
	< 施策 1 1 「高齢者福祉環境の整備・充実」 >
事務局	施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。
委員	主な指標のところ意識調査やアンケートをいくつか見受けるが、多分にアンケートというのは質問の持っていく方でいろいろな答えがでてくるものであると言われている。そのような中で主な指標を選ぶのは、施策を実施する担当部局を選ぶのか。指標に対して別のセクションで、このようなチェック（評価）が良い、というようなことはないのか。
事務局	各施策の指標については、各施策の担当部局において、この施策を進めるために、どのような目標値を定めるべきか、ということを検討した上で、定めている。
委員長	施策の指標について質問があったが、大変重要なポイントである。もちろん、施策を担当する部署が一義的に参加し、企画部門と調整をして、最終的に総合振興計画の中で指標を設定するということは、市全体としてオーソライズされているものとする。この外部評価委員会で施策の成果を測る指標が、今、設定されているもので十分ではないのではないか、という場合もおそらくあると思うが、今、設定されている指標は総合振興計画の冊子に書かれているものであり、これを廃止して別のものにするというのは、なかなか難しいと考える。施策評価シートでは、そのようなことを想定しているのか、

	<p>まだ指標を書く欄がいくつかあり、ここにもっと良いものがあれば追加していくといったことができるのではないかと。まずは事務局にこの点を確認したい。</p>
事務局	<p>そのような取扱いについては、委員皆様の意見を踏まえながら、対応を検討していきたい。</p>
委員長	<p>指標を設定しただけでは始まらなくて、データも取らなくてはいけない。</p>
委員	<p>事務事業評価シートのところの7ページの目標達成状況のところ、同じ目標が、例えば、7ページのシルバー人材センター支援事業のところは、会員数が2つ記載され、活動とKPIと分かれています。同じように次の9ページの老人クラブ活動事業のところも補助対象クラブ数という項目が同じように2つ記載されているが、この理由を教えてください。</p>
事務局	<p>第5次総合振興計画の中では、振興計画以外に複数の計画が掲載されているということがあり、いわゆる事務事業と記載があるものについては、第5次総合振興計画を進める上での手段としての事務事業の活動、成果である。もう一つ総合戦略と記載があるのは、この冊子の中に、まち・ひと・しごと創生総合戦略という、いわゆる国がベースとなって全国どの自治体でも、だいたい作っている計画がある。</p>
委員	<p>そこを兼ねているということか。</p>
事務局	<p>各計画に関連する事業として、実施している事業もあるかと思うが、複数の計画に載っているものもある。そういった意味で同じものが記載されているものと理解していただきたい。</p>
委員	<p>すごく単純な質問だが、ここで言う高齢者とは、実際に何歳以上の方を指しているのか。</p>
事務局	<p>定義については、確認の上、回答させていただく。</p>

<p>委員長</p>	<p>シルバー人材センターでは、60歳以上が加入要件だと思うが、前期高齢者だと65歳以上、後期高齢者は75歳以上と思うが、確認してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>地域包括支援センターというのは、大切な事業だと思う。事務事業をみると、いろんなことをやっているようだが、一般介護予防事業とか認知症総合支援事業など、含まれてしまっているように見えるが。</p>
<p>事務局</p>	<p>代表的なものでいえば、地域包括支援センター運営事業は、市民医療センターが運営事業者として取り扱っている事業になるが、ただ、地域包括支援センターが相談を受けているいろいろなサービスに案内している各種取組については、いろいろな事務事業が関連している。各種取組のすべてを地域包括支援センターで取り扱っているというわけではなく、市が行っている取組もあれば、専門機関が取り扱っている取組もある中で、地域包括支援センターが窓口になっているいろいろなサービスにつなげていくというイメージであり、すべての運営主体ではない。</p>
<p>委員</p>	<p>地域包括支援センターを評価するといった場合、運営が適正にされているかといったものを評価する場合は、どこで評価すれば良いのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>地域包括支援センターの評価というところも大事だと思うが、あくまで施策の目的に対して地域包括支援センターとしてどういったことをやっているか、各事務事業における地域包括支援センターとしての役割や目標が施策を達成するために、適正であるかというようなところを、判断していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>計画を見ると、在宅サービスの充実ということになっている。高齢者の絶対量が増えれば、在宅サービスを利用される方が増えるとは予想されるが、これは市の努力によるものなのか、民間企業である介護保険事業者のような方の努力の結果なのか、なかなか判断がつかないところではあるが、とにかく、訪問支援員の活動量が増えていくということになる。その上で質問となるが、「サービスを適切に利用できるように整備を図ります」の適切という</p>

	<p>表現は定義が難しく、現場、現場で悩まれると思うが、おおよその動向を把握するという事は、評価する上で重要であると考え。その上で言うと高齢者の中でも、在宅サービスの介護保険でカバーされている方が介護度別に、どのように増えたり減ったりしているのか、ということを経験的に共有した方が良いのではないかと考えている。</p> <p>今回の評価を行うに当たり、認知症の方等々というのは、介護保険で判明するかどうかは、分からないが、例えば、介護度の度合いの方がどのくらいいて、このサービスを使っているといったようなデータがおそらく手元にあるものとする。施設サービスについても同様であり、整備ないしは充実といったキーワードに対応した理解が正確にできるのではないかと考えている。</p>
事務局	<p>いわゆるバックデータ等については準備をさせていただく。もちろん、どのレベルまで出せるかについては、検討が必要だが、そういった点も踏まえヒアリングに臨ませていただきたい。</p>
委員	<p>全てに関係することで、施策の目標における成果や目標値というのは、5年計画の令和7年度までの目標値ということで良いか。それから、当初値というのは、令和2年度がスタート値ということか。</p>
事務局	<p>スタート値について、ものによるが、これらを作った時期は令和元年度から2年度にかけてであり、一律に令和2年度というわけではない。</p>
委員	<p>目標値の考え方、根拠というものも質問しても良いか。</p>
事務局	<p>施策評価シートには記載がないが、総合振興計画の冊子の各施策のページの備考欄に考え方を記載している。</p>
委員長	<p>特に意見がなければ、次の施策の説明に移って良いか。</p>

委員一同	異議なし
	< 施策19「浸水対策の推進」 >
事務局	施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。
委員	施策評価シートの「施策の主な取り組み」と指標については、これがこれに結びついてチェック（評価）というのは分かるが、例えば上戸田川整備事業が、どこに関係するかといった場合に、施策の指標は総合振興計画で、「施策の主な取り組み」の事業内容は、事務事業評価シートで見るということになる。そうすると、その事業と、施策全体のバランスは、どこまで追及して良いのか。
事務局	こういった取組が少し不足しているのではないかと、という点についても、意見も可能である。
委員	さらに追加すれば、この前も説明があったかもしれないが、例えば、このような施策があるのに、不足しているのではないかと、というようなこともどこかの段階では、我々から意思表示をしても良いか。
事務局	ヒアリングの中で、こういった取組が不足しているのではないかと、というような点についての意見も可能である。
委員	「施策の主な取り組み」の上戸田川、さくら川、いわゆる河川の氾濫、外水氾濫で、その下の雨水等浸水被害がいわゆる内水ということで、雨水。それで、雨水整備事業ということは下水管の整備で、浸水被害軽減事業というのが、いわゆる地下貯水池の整備ということで良いか。そうした時に、浸水被害軽減事業というのが地下貯水池の話で、その下の施策の指標のところに浸水被害箇所数というところと言われているが、これは内水、外水の合算か、内水だけか。
事務局	市内の道路冠水の件数あるいは、床下浸水、床上浸水の件数を実際に豪雨災害等があった際に、危機管理防災課において把握している件数を引用して

	<p>いる。</p>
委員	<p>それでは、河川氾濫は、これに入るといふことか。言葉遣いとして、浸水被害箇所数という言葉と、上の浸水被害軽減事業というところが、上は内水だけで言っていて、下が内水と外水の合算という定義で良いか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
委員	<p>内水、外水というような考え方でいくと、外水でいうとメインは荒川で、荒川の土手の内側で起こったものは、内水と判断すると、さくら川もそれから上戸田川も内水となる。これは、それぞれで定義すれば良いと言うのだけれども、戸田市の場合はそれが別々である。だから、さくら川や上戸田川は外水と言っている。言葉の定義などは書いてあるが、社会の一般的なものとは違う気がしている。さらに、ハザードマップのそれも必ずしも反映されていないということもあるので、ヒアリングの時には確認したいが、担当部局はそのような点を、はっきりさせて来てほしい。</p>
事務局	<p>定義について、委員の皆様と担当部局の共通認識が変わる可能性があるのので、気になる言葉や定義がある場合は、このあと説明する事前質問で質問していただきたい。事前質問であれば、事前に準備でき、ヒアリングがよりスムーズに進むことから、そのような場合は、事前質問に記載いただきたい。</p>
委員	<p>「施策の主な取り組み」ということで、これから、例えば、新たな取組を行うとなった場合は、そこから何年なのか、あくまでも令和7年度に向けて、途中から始まるという考えなのか。目標年度は変わらずということなのか。</p>
事務局	<p>総合振興計画は市の最上位計画で、仮に新しい事業が始まった場合には、令和7年度が一つの目標になる。ただ、やはり、各計画と個別の事業におけるニーズから令和7年度では終わらない場合も考えられる。特にハードものは、多数あるので、そのようなところは計画と実際の個別の実情ということで目標年度も変わってくる場合がある。</p>

委員長	昨年度、浸水被害箇所数は0件なのか。
事務局	そのとおりである。天候の状況によって左右されてしまうこともある。
委員長	特に意見がなければ、最後の施策の説明に移って良いか。
委員一同	異議なし
	< 施策30「産業振興の推進」 >
事務局	施策評価及び事務事業評価シートに基づき、説明を行った。
委員	ここで言っている「戸田ブランド」は具体的にどのようなものがあるのか。
事務局	具体的なものについては、本日、用意していないため、当日までに紹介できるようにしたい。
委員	指標で、例えば、法人住民税の状況とか、こういうデータはあるか。いわゆる経済度合いを見るときに、これだと少し物足りないので、もっとベースデータがほしい、税収関係など。中小企業とかの売り上げなどは、商工会議所などでも分からないか。
事務局	どういった資料が準備できるかも含めて、検討する。
委員	もう少しマクロ環境的なベースデータがほしい。
委員長	戸田市も経済戦略プランの策定に当たって、おそらく、定性的なものではなく、定量的なものも備えられているはずであるので、確認をお願いしたい。
事務局	どういった資料が準備できるかも含めて、検討する。
委員	取組の方向性等をみると、技術開発等々となっているが、日本全体の産業構造を考えると、福祉・医療系という税金や社会保険料がプールされて、そ

事務局	<p>こからの収入が回ってきてビジネスが回っていく領域として確立しているものがあると思う。今回、総合振興計画を見ると、そちらの言及がほぼないように見えるが、なにか意図的にそのようになっているか。</p> <p>意図的に外しているかという指摘であれば、そこは意図的に外しているものではないと考える。ただ、一方で、周辺環境を踏まえて、戸田市としてどのようなことをすべきか、ということをお案し、このような記載に落ち着いたというものである。繰り返しにはなるが、意図的に外しているのかということであれば、意図的ではないと考える。</p>
委員	<p>産業振興と総合振興計画に載っているが、これを策定した段階で、産業といったものをどういう方向にもっていこうというような検討がされたか聞いていますか。また、それはどのような取組に反映させているのか。といったものをこの両方の資料を見比べていただけでは、産業振興というものと、取組というものが上手くマッチングしていない。</p>
事務局	<p>関連計画として、さきほど事務局より説明したとおり戸田市は経済戦略プランを令和3年から開始している。総合振興計画という観点では、紙面の都合等々もあるが、若干、総花的な書き方になってしまうところもある中で、経済部門としては、経済戦略プランも立てているところである。その辺りの関係についてもヒアリングの中で確認をしていただきたい。</p>
委員	<p>さきほどの質問の戸田ブランドにも関連してくるが、そこが分かれば、我々の評価もそのような点からも評価しやすくなる。</p>
事務局	<p>総合振興計画というのは最上位計画というところがあり、性質上、俯瞰的な見え方というところが多くあるので、そういった細かい点についてもヒアリングで確認をしていただきたい。</p>
委員	<p>事務事業評価シートの3ページ目の中小企業融資事業だが、事業に2億ぐらい事業費を使っている割には、目標が結構粗末である。制度融資は県の方の保証協会の事業が中心だと思うが、それがまずベースにあって、そこから</p>

	漏れるものを市が補完するという事業だと思っている。そのメニューや県の事業でベースがどれだけいるか、データとして確認したい。それで外に漏れるのがどのくらいいて、本当にこの割合なのか。また、これに2億ほどの事業費を使っている。指標は新規件数ということで、これ以上の実績や件数があるのだと思うが、そこが見えない。データでそのような点が参考値として見えないと、評価ができないと考える。
事務局	資料を整えさせていただく。
委員長	他になければ「議題(1)令和4年度評価対象施策の概要について」を終了する。
委員一同	異議なし
事務局	(2)ロジック・モデルシートを用いた評価について 現在、各施策のロジック・モデルシートについては、各部局において更新作業中であり、ヒアリング実施前には各委員へ送付させていただく予定である。そのため、本日は、ロジック・モデルの理解を深めることを目的として、委員長から「ロジック・モデル」について、説明いただく機会を設けた。
委員長	ロジック・モデルについて、説明を行った。
事務局	議題(2)についての意見・質問のうち、ロジック・モデルに関する内容については、委員長から、その他運営面等の質問については事務局から回答する。
委員	今回、評価対象とした施策が6つに決まった。何ら異論はなく、評価したいという施策もでていますが、委員皆様の回答内容について、支障なければ、委員内公開してもらえないか。 理由としては、自分が希望する施策以外を選んだ理由が分かることで、多角的な観点など、今後、評価を行うにあたり非常に有用な資料になるのではないかと考えている。また、委員皆様に評価したい理由を一つ一つ説明して

	<p>もらうには、時間の問題もあり難しいことから、委員皆様の回答内容を支障なければ、公開してもらえないのかという提案である。</p>
事務局	<p>事務局としては手元に資料があるため、委員会として良いということであれば、提供は可能である。</p>
委員長	<p>提供する資料は表形式のようなものか。</p>
事務局	<p>そのような資料である。各施策については、この委員は、このような理由で、これを選んだという表形式のものである。</p>
委員	<p>選定結果を納得する意味でも良いのではないか。</p>
委員長	<p>なぜ、この施策を外部評価として選定したのか、というところが、ブラックボックス化して、密室で決められたかのようなイメージが、ここで参加していない多くの方々にとっては思うところがあるかもしれない。もし差し支えなければ、事務局と相談の上で公開しても良いのではないか。</p>
委員長	<p>以上、「議題（２）ロジック・モデルシートを用いた評価について」を終了とする。</p>
事務局	<p>（３）今後の事務スケジュールについて 資料４に基づき、説明を行った。</p>
委員	<p>ロジック・モデルシートというのは、今、説明のあったような形に、フローチャートに落とされたものか。</p>
事務局	<p>そのとおりであり、各施策のロジック・モデルシートを送付する。</p>
委員長	<p>ロジック・モデルシートの内容を踏まえて、施策評価シートの内容が作成されているということで良いか。</p>

事務局	そのとおりである。
委員長	その他に意見や質問等はないか。
委員一同	なし
	3 閉 会